

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0773100516		
法人名	医療法人大久保クリニック		
事業所名	グループホームおおくぼ		
所在地	福島県田村市船引町船引字扇田232-1		
自己評価作成日	平成24年10月5日	評価結果市町村受理日	平成24年1月4日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成24年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本当の家族といえる時と同じ安らぎを感じてもらえるような雰囲気づくり。 残っている力を奪い取らない支援。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の権利や人権が尊重されている。 スタッフ間の意見が取り入れられてケアの質の向上に反映されている。 一人ひとりの利用者への対応力を高めるために職員全体が常に学びを深めている。</p>
--

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所理念を棟内数カ所に掲示しており職員が確認してケアサービスにつなげている。</p> <p>朝礼時合唱し常にケアサービスを行う時どころがけています。</p>	<p>理念が入口や利用者の居室にも掲示してある。</p> <p>理念に沿って各スタッフ個人の目標も立て、達成状況を月末に評価している。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>地域の草刈りに参加。広い範囲で地域の方にグループホームおおくぼを知って頂けた。組長さん、区長さん、民生委員さんとの交流継続。以前よりも親密になれました。至らないところ等助言頂いております。</p>	<p>地域の草刈りに利用者と参加したりふれあいサロンの場を提供することで、地域との信頼関係が深まっている。交流することで認知症の理解も得られている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症の歴史 宮崎和加子先生の講義研修を当事業所2名受講。研修報告を運営推進会議で発表。写真なども用いり実演も入れた発表となり地域への発信につなげられたと思います。</p>		
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>行事の発表、事故報告、ヒヤリはっと報告、研修報告を聞いて頂き、どうしてそうなったのかなど意見を頂いている。</p>	<p>2ヶ月に1回奇数月に開催する。事業報告の他に職員が研修してきた内容を報告することにより双方向に研修の機会を持っている。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>1月に市の実地指導があり改善すべき事項方法など丁寧に指導いただきました。困った時、分からない時、いつも相談にのってもらえるので安心していきます。</p>	<p>実地指導により労務管理や福利厚生等を懇切丁寧に教えてもらうなど、気軽に相談できる関係が築かれている。</p>	
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>グループホームおおくぼ身体拘束マニュアルがあり、禁止となる具体的な行為について職員全員で確認し身体拘束廃止にむけている。</p>	<p>拘束をしないケアの理解は得られている。医療面の必要性から拘束をせざるを得ない事例があった、最小限の拘束にするべく努力をした結果、医療的な面も解決されてきた。それについては県の研修会で専門的な意見を求める等拘束をしないケアに向けて取り組んでいる。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修会に出席し虐待防止につとめている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症高齢者に対する権利擁護を福島県グループホーム協会主催研修会で学習しており内部研修で倫理について学習をした。入居者の方で必要と認められた場合は関係者と話し合い活用していく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に説明し納得していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	スタッフ会議にご家族出席頂き希望を聞いて共有している。その旨なども運営推進会議で発表し意見をいただいで対応している。	家族が参加する会議の中では終末期ケアに対する意見が多く出される。そのため終末期ケアに対するアンケート調査をしてその結果を運営推進会議で報告し、理解を得て運営に反映している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議での意見、提案を反映している。	月1回施設長、管理者、ケアマネを含めた職員間で会議を開いている。スタッフ間の人間関係も良く忌憚のない意見を出し合い日々のケアに反映している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年新たに3名の職員が正職員となり研修会に積極的に出席。向上心を持って働ける職場環境ができています。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務表も研修会に出やすいように作成している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会、交流会に出席して情報交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	見学、入居時、ケアプラン作成時に本人の希望を聞いて安心して生活できるよう努め日々のサービスに生かしている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	入居前に十分話し合っている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	家族の要望を含めケアプラン作成している。		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	利用者1人1人を家族と思い日々のケアをしている。出来ることはやっていただけるようにしている。		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	行事が行われる時ご家族にも参加頂けるようにおたよりで呼びかけをしている。面会にみえたときなど歩行が可能な利用者のご家族みずいらずでのドライブなどの家族支援の協力をお願いしている。		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	職員と買い物に外出。ご近所のボランティアさんやお隣の子供が遊びにきます。面会の人数も多く一度に12名来た時もありにぎやかな日が多いです。	昔、本人が行っていたスーパーや床屋などに意図的に出かけていき、なじみの人との再会を楽しむように計画し実践している。	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	入居者の相性を考慮し席を誘導したり、入居者同士が自然に助け合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	できていない。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に一人一人の思いを引き出す関わりを持っている。	センター方式を活用して本人の思いを把握している。言葉で聞くばかりでなく本人の発したささやかな言葉やしぐさなどからも理解するように努力している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報を取得、居室の環境変化の緩和に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の日誌、スタッフ申し送りで状態を把握している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送り等での情報を基に職員全員で検討してケアプランを作成し、家族の想いや意見も取り入れ再度家族に確認して頂いている。期間中でも必要であれば介護計画の見直しを行っている。	重度者が多くなってきているので介護計画は常に動いている。見直された計画はその都度職員が共有できるようにしている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、きずいた時管理者、スタッフと話し合い、申し送り帳に記入して必要に応じてケアプランに導入している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に応じてケアプランの変更は随時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前の生活環境を入居時、日々の談話の中から収集し、なるべく好まれることを断続できるように支援している。地域ボランティアさんの活躍やご家族の協力もあり野外での食事や炭火おこしをすることができた。			
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族の思いを尊重したかかりつけ医を確認して職員が送迎している。併設されているクリニックから週2回ドクター往診があり、適切な医療が受けられ緊急時の受診体制がとれる。	今までのかかりつけ医を尊重して薬の情報交換をするなど連携が取れている。遠方の病院受診時には家族の協力が得られて、医療情報の伝達についても合意ができています。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が1名配置されている。併設クリニックより訪問看護も週3回受けており緊急時の連携体制が取れている。			
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合の情報提供を行い、スタッフも面会に行き、安心できる関係づくりに努めている。			
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の方針についてご家族にアンケート、同意を頂いている。直接職員、ドクター、看護職員、ご家族と終末期について話し合いが行われている。	過去に1名の看取りの実績がある。平成23年度中に終末期の方針について家族と話し合い同意をもらっている。月1回全員の家族に利用者の身体状況について情報を伝えると共に職員全体で率直に話し合い対応について検討している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時のマニュアルをいつも見れる場所に貼ってある。いつでも看護職員、クリニックへの連絡が取れる。			
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラー設置。緊急時の連絡簿での自動通報で近所の運営推進委員会さんへの自動通報確認をしている。年2回の火災避難訓練実施。震災後自宅から事業所までの避難経路、所要時間の確認を行っている。消防署より地震時は居室に避難することが安心だということをお知らせ頂いている。	スプリンクラーを昨年設置した。利用者と一緒に火災避難訓練をした際に重度の人は所要時間がかかったため、その改善点を消防署に意見を求め避難方法を今後生かしていくようにしている。日頃の火元の管理では担当者が責任を持って実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の権利擁護について職員の研修に力を入れた。日常的に一人一人の人格を尊重した言葉づかいに気を付け接している。スタッフ同士が注意し合っている。	権利擁護の研修には積極的に参加して、その人らしさを尊重する言葉かけや対応に生かしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	談話の中から、希望を引出本人の思いを確認して進めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れの中で進めているが、個人の希望が聞かれた場合は変更して対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人一人の好みを考えて、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいかを聞き、その日のメニューに反映している。 誕生日には好みの物を一品つける。 ボランティアさんによる季節料理の提供がある。 施設内の広い中庭で炭をおこし鮎を焼き野外での食事でアウトドアを楽しんだ。	ボランティアによる季節料理は利用者の楽しみとなりボランティア自身の喜びにもつながっている。場所を変えて戸外で食べるなど食事の雰囲気を変える工夫をしている。その中で流動食の人がアユの塩焼きをほおぼる場面に潜在的な能力を発見し次の食事にその力を生かすなど食事を楽しめる支援をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量の記録をし、少ない場合は援助して体調の変化に対応している。 食事環境の見直しをしながら対応をしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	うがい、歯磨きの声掛け、介助をしている。 重度者の口腔ケアとして、手作り綿棒でイソジン口腔清拭施行。 口腔環境の悪化を予防している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄間隔を把握。自立できない方は1時間～2時間間隔で言葉かけを工夫している。水分の摂取量も考慮している。自立できている方の夜間時の排泄は、見守りをしている。一人一人のその時の様子や時間をみて誘導、又は介助をしている。	排泄パターンをしっかり把握して対応することで失敗が見られなくなっている。誘導時にはさりげない言葉かけをしてプライドに配慮した支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を多めにとり、又は冷たい牛乳を飲んでいただいております。食物繊維の多い野菜やくだものを摂取して頂いている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者の希望や意向に合わせて入浴日以外でも入浴できている。体調の変化により入浴出来ない方に対しては、清拭を行い清潔の保持。	入浴が好きな利用者が多いので、手の空いている職員がその都度希望に沿って対応し、入浴を楽しんでもらっている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	談話の時間をもち穏やかな気持ちで休んでいただいている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医、看護師との連携を取りながら服用して頂く。薬剤の誤薬の防止のため職員同士確認を行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	草むしり、居室の掃き掃除、廊下の掃き掃除、テーブルを拭く、食器拭き、畑の野菜を収穫など自分の意志を尊重し選んだり、決めたり出来る支援を日々心がけています。ボランティアさんの季節料理をいつも楽しみにしています。フラダンスのボランティアさんが見えたとき一緒におどり深い愛に利用者も職員も感謝しました。カラオケ購入。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員とドライブ。いきつけのスーパーに行き挨拶を交わされたり、ご友人のお医者様に受診に行き受診以外の会話を楽しまれたりしています。自宅に行きほしいものを取りにいきます。	年間計画のもとにお花見など季節の行事を楽しんでいる。日常的には曜日を決めて買い物したり、自宅に自分の欲しいものを取りに行くなどの外出支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人の希望があれば、職員といきつけのスーパーで買い物したり、近くの店で洋服や靴を購入しております。おこずかいが事務所金庫でお預かりしております。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人の希望があれば、電話をしたり、おたよりがあった時は本人に渡します。返事のおたよりがある時は職員とポストに投函します。返事を出したくてもかけない方は職員が代筆し返事やお礼のおたよりをだします。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>花壇、玄関ポーチは季節の花をふんだんに植えており、利用者の心を和ませます。ホールのたたみコーナーはこたつがおかれており利用者さんの大好きな場所です。</p>	<p>外の花壇に花々を植えて利用者や近隣の人の心を和ませている。近隣の人が立ち寄ってお話しをしていく場面も見られ一つの交流の場にもなっている。居間には季節感のあるこたつを置いて皆がホットする空間づくりをしている。また談話室には観葉植物が置かれ利用者が落ち着ける工夫をしている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホールや和室、応接室を自由開放。個人の状況にあわせ使い分け、時には職員も隣に座って会話をしたり外のポーチで日光浴したり、外をながめたりしています。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真を貼ったり、お誕生日のプレゼントを飾っています。</p>	<p>思い出の品々やなじみの家具類を置いて、安心できる居室づくりに配慮している。昔の写真を貼ることで話のきっかけづくりにもなっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>棟内バリアフリーになっていて安全に歩行でき、テスリも設置してある。</p>		